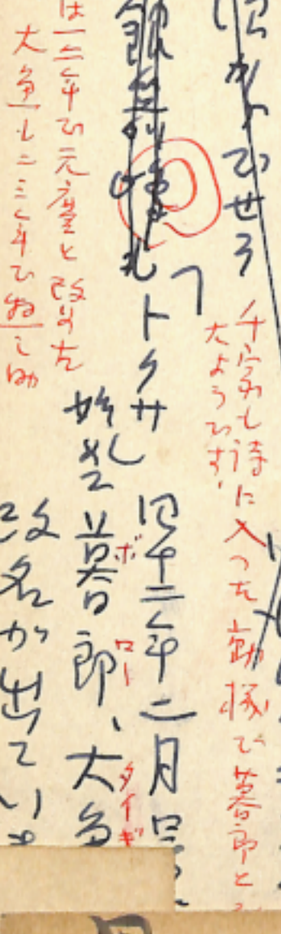
多摩の登戸　六郎兵衛さまよ

藤は六尺
藤は六尺　いま盛り　白秋

師弟碑に音頭碑加へお元日
筆天

トクサを又におい
いての件は今り
髪をるに出ーますたかとちきに出るまくると
ります、其吉一寸お知らせします。おかけ下さ

てを死などよとて
仕ぬせう 千ぶみしまに入つた鉢植で菩提とう
大ようです
一、鍛冶橋北トクサ 姓名 菩郎(ダイギ) 大多
改名が出ていま

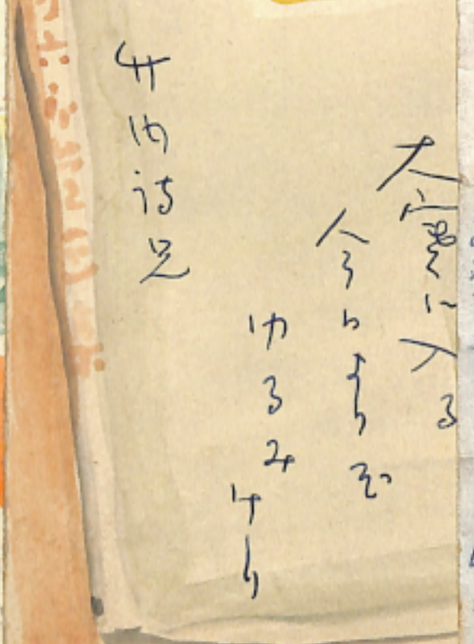


軍馬鞭三日黒

投げ附上の
益ノ御土行の向
上ひたすら貴台
のほう造すによるの
打ち敬服陣ます
老もうの王生者と
は無記名かきいにり
苦人の詩文をし賀する
の物にい

新の就
すばたる人に
こむホール

投を祝う俳ぢました。



大変ご
くろうさまでした
ゆるみけり

の十八年一月に
か雲存の句碑
宮をかあります
年十月と附記
のでそれを人と名
に記載ーたと又
以上行ーてる
かが確かに建立
年十月五日か
人陰をすを
てその当ろ
もありません、陰
はせず其俳とな
ます。
「程」は訂正せねばなりま
お足つけ下さいまた、俄俳

迄に俳折な時代の研究いまするお読、そ
中にとくさしを仕まか締筆ーたようにりま
すか仕を和締筆ーたなんてる統対りませ
仕を自身かえんなるをいかに書いている
で湧りか起ったのひすかっそれは仕をの芭蕉せ
私方会は代のトクサ」締筆者は近多山、大室
一星ひす、私阿代のトクサは一星と私ています。全
は前鍛冶一星田山山では後者は一星(人)てす
千家、佐多、仕を書い同人雑誌ています、これにる
当在ありません、訂正ーておいて下さい、但し同人と言う割あい
なく仲るおったんです

深悼申ます
全雪